

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	高島市カンガルー教室（児童発達支援センター「エール」）			公表日	令和8年3月10日
	チェック項目	平均点 (50点満点)	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 (基準：児童一人当たり2.47㎡以上)	4.7	・個別支援時は、衝立を利用したり時間を区切って部屋を使うなどしている。	・人数や遊び方によってはスペースに限りがあると感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 (基準：障害児4人に対して1人以上の児童指導員または保育士の配置)	4.8	・職員配置に余裕があることで、大掛かりなイベントができています。	
	3	生活空間（プレイルーム・うんどうのへや・ランチルーム・砂場など）は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3.6	・通所児が遊具や物品を迷うことなく見つけることができている。 ・バギーの通行も大きな負担なく可能。	
	4	生活空間（プレイルーム・うんどうのへや・ランチルーム・砂場など）は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4.2	・児に応じた遊具の設定を都度行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4.1		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3.2		・職員の話し合いの機会はあるが、目標に対する振り返りまでできていない。 ・ワーキンググループのような形での話し合いは、今年度は出来ていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3.3	・年に1回、管理者が保護者から意見を聞く懇談の時間を設けている。 ・保護者評価結果について、職員間で共有し、課題や改善すべき点について、話し合いをしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3.1		・業務改善に特化した話し合いの機会が設けられていない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3.1	・年1回の児童発達支援推進会議で、事業所評価の結果を報告し、評価を受けている。 ・会議の結果をセンター内で共有する時間を持った。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4.4		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3.9		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	3.6	・保護者と面談の時間をもち、前の期を振り返りながら、次の期の計画を作成している。	
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3.8		
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3.9	・職員全員で個別支援計画に係る会議を実施し共有をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、心理発達検査結果を用いたアセスメント（フォーマルアセスメント）と、日々の行動観察や懇談などから得た情報からのアセスメント（インフォーマルアセスメント）を使用し確認しているか。	3.8	・事業所外のセンター職員もアセスメントに協力をしている。 ・他の職員の意見も取り入れてアセスメントを行っている。	

		チェック項目	平均点 (50点満点)	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3.9		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3.7		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3.7	・意図的にプログラムを固定していることもある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	3.7	・5領域を意識した計画になっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4.6	・朝のミーティングやカンファレンスにおいて共有出来ている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4.0	・ほぼ毎回療育後のカンファレンスを行っている。	・カンファレンスの内容は報告のみに終わらず、次の支援に繋がるように工夫や見直しをしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4.3	・支援当日に療育記録をつけている。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4.1			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4.5		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4.1		
	26	支援終了時の移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3.7	・担当児の通う園への訪問や発達相談などの機会を通して情報共有が出来ている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3.7		・現時点では直接関わることがないが、必要があれば相互理解は図っていく。
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	3.5	・児童発達支援センターとして取り組みを進めている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3.9	・県立総合病院からの派遣により、小児専門のリハビリ職から助言をもらうことが出来ている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	4.0	・市の障がい者自立支援協議会等の会議に参加している。 ・市の子ども子育て会議に参加している。 ・会議参加の復命により把握している。	
	31	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4.4	・話すことが苦手な保護者さんもいるが、概ねできている。	
	32	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援(チャット・親子あそび・懇談)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4.5		
33	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3.8			

		チェック項目	平均点 (50点満点)	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	34	個別支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4.3	・保護者との面談を行い、支援計画を作成している。	
	35	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4.6	・計画開始時や、モニタリングでの評価結果は、療育時に担当から説明する時間を設けている。	
	36	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4.2	・療育後の保護者との懇談や家庭訪問、チャットにより行っている。	
	37	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4.3		
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3.6	・「カンガルーだより」を定期的に発行している。	
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4.6		
	40	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4.1		
	非常時等の対応	41	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3.1	・火事や地震の訓練は行っている。
42		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4.2		
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3.9	・保護者から提出された「おたずね票」により情報を得て確認している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3.7	・食事の提供はしていないが、情報としては把握している。	
45		非常災害の発生に備えて、定期的に必要な研修や避難訓練などを行い、安全管理がされた中で支援が行われているか。	4.1		
46		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3.9	・避難訓練では、子どもの安全確保について説明をしている。	
47		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3.7		
48		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4.1		
49		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	4.5	・支援計画に明記し、保護者への説明を行っている。	